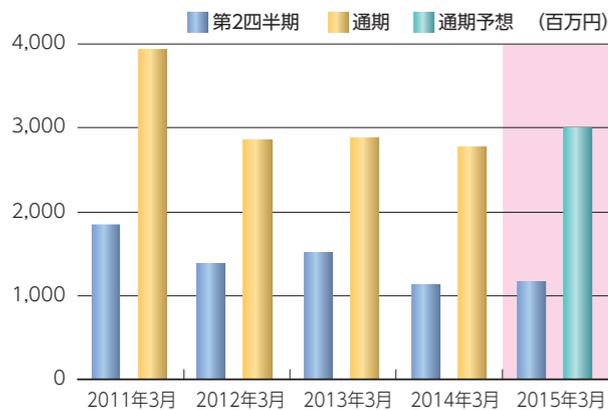


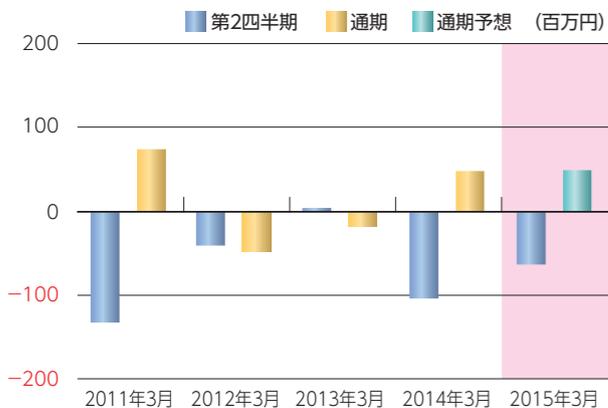
## 業績の推移

### ■ 売上高



(百万円)	1,846	1,389	1,517	1,144	1,181
(百万円)	3,937	2,860	2,891	2,778	3,000

### ■ 経常利益



(百万円)	-131	-40	1	-105	-62
(百万円)	74	-49	-19	49	50

## 株式 MEMO

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない場合が生じた場合には、 日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL: <a href="http://www.ina-research.co.jp/">http://www.ina-research.co.jp/</a>
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 ● 電話: 0120-244-479 (本店証券代行部) (24時間受付: 自動音声案内) ● URL: <a href="http://www.tr.mufig.jp/daikou/">http://www.tr.mufig.jp/daikou/</a> なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、 お取引口座のある証券会社にご照会下さい。
同取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料

当社のホームページでも詳しい情報を同時に開示しております。  
ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ina-research.co.jp/>

イナリサーチ

株式会社 **イナリサーチ**

〒399-4501 長野県伊那市西箕輪2148番地188  
TEL 0265-72-6616 FAX 0265-72-6657

UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

株式会社 **イナリサーチ**  
証券コード: 2176

# 株主通信

## 2015年3月期第2四半期

(2014年4月1日～2014年9月30日)

### ■ 売上高

(前年同四半期期比+3.2%)

**1,181**百万円

### ■ 営業利益

(前年同四半期は営業損失93百万円)

**△52**百万円

### ■ 経常利益

(前年同四半期は経常損失105百万円)

**△62**百万円

### ■ 四半期純利益

(前年同四半期は四半期純損失15百万円)

**△46**百万円

### ■ 1株当たり四半期純利益

**△15円48銭**

#### 注記事項

※本報告書は11月11日発表の第2四半期決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後  
に発表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては金融  
庁EDINET、当社ホームページ掲載資料にてご確認ください。

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能  
な情報に基づいて作成しておりますが、実際の業績等は様々な要因により予想と異なる結果と  
なる場合があります。

## 株主のみなさまへ



代表取締役社長

**中川 賢司**

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶  
び申し上げます。平素は格別のご高配とご支援を賜り、誠にあり  
がたく厚く御礼申し上げます。

2015年3月期第2四半期を終了いたしましたので、ここにご報  
告いたします。

当第2四半期の業績は、売上高は1,181百万円(前年同四半期  
比3.2%増)、営業損失は52百万円(前年同四半期は営業損失  
93百万円)、経常損失は62百万円(前年同四半期は経常損失  
105百万円)、四半期純損失は46百万円(前年同四半期は四半  
期純損失15百万円)、1株あたり四半期純損失は15円48銭とな  
りました。

主力の非臨床試験については、試験の進捗管理の強化の成果  
等により売上高・利益ともに前年同期実績を上回ることができ  
ましたが、計画には達しませんでした。臨床試験では、心電図解  
析試験が売上となりました。環境では、脱臭装置の設置工事及  
び空調・改修工事が売上となりました。

当社は製薬企業のニーズに応える共に、医薬品開発支援を通  
じて社会に貢献すべく、さらなる事業領域の拡大・充実に取組ん  
でまいります。今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、  
心よりお願い申し上げます。

2014年12月

## 事業別の概況

### ■ 非臨床試験事業

当事業におきましては、売上高は1,075百万円(前年同四半期比2.5%増)、営業損失は48百万円(前年同四半期は営業損失73百万円)となりました。試験の進捗管理の強化の成果等により売上高・利益ともに前年同期実績を上回ることができましたが、委託者からの試験期間延長のお申し出により最終報告書の提出が第3四半期以降にずれ込む試験があり、計画には達しませんでした。

### ■ 臨床試験事業

当事業におきましては、売上高は45百万円(前年同四半期比70.6%増)、営業損失は2百万円(前年同四半期は営業損失19百万円)となりました。心電図解析試験が売上となりました。また、新規の試験が受注となり、その他試験実施に向けた問い合わせがあり具体的な協議を進めていることから堅調に推移しています。

### ■ 環境事業

当事業におきましては、売上高は60百万円(前年同四半期比12.1%減)、営業損失は2百万円(前年同四半期は営業損失0百万円)となりました。脱臭装置の設置工事及び空調・改修工事が売上となりました。

## 業績の予想について

### ■ 2015年3月期通期業績予想

売上高 3,000百万円

営業利益 83百万円

経常利益 50百万円

当期純利益 28百万円

1株当たり当期純利益 9円44銭

1株当たり配当金 3円

## 東海大学、滋賀医科大学、慶應義塾大学との 共同研究契約の締結について

(5月27日)

東海大学、滋賀医科大学、慶應義塾大学および株式会社イナリサーチは、「MHC統御カニクイザルの有用性評価と計画生産の検討」を研究テーマとして、共同研究契約を締結いたしました。

### 共同研究の意義

iPS細胞技術を用いた再生医療及びがん・感染症といった疾患研究などにおいて、移植拒絶の緩和は大きなテーマとなっています。ヒトの臓器移植において、ドナーと移植希望者との間のMHC※の型を一致させることは拒絶反応回避のために重要な要素です。また、特定のMHC型が特定の薬剤副作用と関連することが明らかとされ、疾病治療時の薬剤選択に先立って患者のMHC型を調べるケースも増えてきています。一方、カニクイザルはヒトに近い霊長類であり、昨今のヒトでの外傷(損傷)や疾患などで機能喪失した組織、臓器などの再生医療研究におけるiPS/ES細胞の基礎研究から臨床研究への橋渡し研究への利用が期待されています。

## 信州大学医学部とのiPS細胞を用いた 再生医療技術の共同開発について

(11月12日)

現在、心筋梗塞の急性期から生還してもなお、心臓の機能の一部が壊死する事により、後日心不全を発症して命を落とされる方々が多くおられ、新たな治療法の確立が切望されております。近年、iPS細胞から心筋細胞を作製し、心臓の壊死した部分に移植する事により、心臓の機能を取り戻そうとする研究が一部で進んでおります。当社は、かねてより信州大学医学部循環器内科学教室の柴祐司講師の研究チームとの共同研究により、MHC※統御カニクイザルを用いたiPS細胞の心臓への移植試験の準備に取り組んで参りましたが、この度全ての準備が整い、移植試験が開始される運びとなりました。

※MHC(主要組織適合遺伝子複合体)遺伝子は外来抗原を非自己と認識して、感染病原体の排除や、がん細胞の駆逐、臓器移植の際の拒絶反応等の免疫反応に関与するタンパク質の遺伝子情報を含んでいます。カニクイザルのMHC遺伝子はMafaと呼ばれ、ヒトのMHC遺伝子群の遺伝子構成とよく類似しています。